

1 単 元 音楽の構造と表現の工夫

2 目 標

- 音楽の構造と曲想との関連に関心を持ち、表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとする。
- 音楽の構造と曲想との関連を理解し、ふさわしい表現の工夫ができる。
- 声の音色や強弱を変化させて歌うことができる。
- 音楽の構造や曲想との関連に注意しながら、自分たちの録音の演奏を聴くことができる。

3 指導観

- 本単元は、学習指導要領の第 2 学年の表現の内容 (1) - ア「歌詞の内容や曲想を味わい、表現を工夫して歌うこと」、ウ「声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」をねらいとして設定したものである。

音楽は、強弱・旋律・リズムなど、様々な要素からできており、それらの要素や構造の働きにより、楽曲の曲想は生み出されている。つまり、楽曲の構造を捉え、音楽の構造と曲想との関連を理解し、それを手がかりとして表現の工夫を行うことが音楽表現の基本である。特に合唱では、「声部の役割や全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと」とあるように、各声部の役割や声部同士の関わり方を理解することが表現の工夫をする上で非常に重要となる。したがって本単元では、楽曲全体の構成を理解し、自分の声部の役割や他の声部との関わり方、全体の響きやバランスを考えながら表現する力を養いたい。

本教材である「虹」(森山直太郎・御徒町胤作詞・作曲/信長貴富編曲)は、2006 年の第 73 回 NHK 全校学校音楽コンクールの中学校の部の課題曲として作曲されたものである。全体的に爽やかな曲調であり、タイを多用したポップス風の軽快な旋律が特徴的な楽曲である。歌詞の内容は、出あいと別れとがテーマとなっており、生徒にとって共感しやすいものとなっている。また、魅力的な副旋律が多く、主旋律を歌わないパートも、曲想を左右する重要な役割を持っている。したがって、パートの役割やパート同士の関連などの、音楽の構造を手がかりにした表現の工夫について学ぶことができる楽曲である。

- 本学級の生徒は、一人一人が積極的に声を出し、合唱活動に意欲的である。しかし、歌唱において表現の工夫をする際、多くの生徒はその手がかりを歌詞のみにもとめる傾向がある。そこで、楽譜から音楽の構造を読み取り、それに基づいた表現の工夫を行うことで、より幅広い表現の工夫ができるようにしたい。
- そこで本単元では、教材「虹」(森山直太郎・御徒町胤作詞・作曲/信長貴富編曲)の楽曲全体の構成を理解し、音楽の構造と曲想との関連を理解しながら表現の工夫ができるようにしたい。そのために、まずパート練習を中心に音程を確認し、一人一人が確実に音程を取れるようにする。次に全体で合唱練習をし、正確な音程でリズムや速度に気をつけて歌えるようにする。また、本教材である「虹」は、多声的な作りの部分が多く、魅力的な副旋律によって主旋律が引き立てられている。そのため、単に主旋律が強く歌って、他のパートは弱く歌うという単純な工夫ではなく、主旋律以外のパートも自分のパートの役割を意識し、他のパートとの関わりを考えた表現の工夫をする必要がある。そこで、まず簡単なコーラル練習を行い、各パートのバランスや自分のパートの役割を意識しながら歌う力を育てる。そして、それぞれのパートの旋律の役割や、旋律の雰囲気、強弱について考え、それを手がかりにした表現の工夫を行う。これらの活動を通して、表現の工夫をする際に楽曲の構造に注目できるようにし、その背後にある作曲家の意図も考えながら表現の工夫ができる力を育成したい。

4 教材

○「虹」

(森山直太郎・御徒町風作詞・作曲／信長貴富編曲)

5 指導計画

音楽の構造と表現の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8時間

(1) パート練習を中心に音程の確認をし、曲のイメージを膨らませる・・・・・・・・・・・・・2時間

(2) 歌詞の内容や、音楽の構造による曲想の変化を生かした表現の工夫をする・・・・3時間(本時 3/3)

(3) 自分たちの表現の工夫を再現するための技能を習得し、楽曲の完成度を高める・・・・・・3時間

6 本時の学習指導

(1) 目標

○ それぞれのパートの旋律の役割を理解し、パートのバランスを意識しながら合唱する。

(2) 資料及び準備

○ 楽譜、ホワイトボード、

(3) 学習指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	時間
1 発声練習をする。 ○「犬のおなか」で発声練習する。 ○「あくび」で発声練習する。	○ 姿勢・口の開け方・顔の表情・目線など、発声の仕方に注意しながら歌うように指導する。	3分
2 本時の学習内容と目標を確認する。 パートの役割やパート同士の関係に気をつけて歌おう。	○ 生徒一人ひとりが、見通しを持って学習できるよう、本時の学習内容と目標を板書する。 ○ パートの役割やパート同士の関係を理解することの重要性に気付くことができるよう、主旋律以外の旋律にもそれぞれ役割があることを説明する。	8分
3 コラール練習をする。 ○ パートの役割を意識し、他のパートの音を聞きながら練習する。	○ パートの役割やパート同士の関連を意識して歌うことができるよう、パートの役割がはっきりした簡単なコラール練習を行う。 ○ 他のパートとの関わりに気づくことができるよう、各パートの中でペアを作り、同じパートで固まらないように移動して歌う場を設ける。	13分
4 それぞれのパートの役割や、旋律の雰囲気を楽しみから読み取る。 ○ 練習番号Bの部分を楽譜で確認する。 ○ パートの役割と旋律の雰囲気について分析し、発表する。(グループ)	○ パートの役割やパート間の関連について理解しやすいよう、パートごとではなく、パートを縦割りにしたグループで話し合わせる。 ○ 各グループを回り、パートの役割を考えるときには、まずどのパートが主旋律かを考えるように助言する。	18分
5 分析の結果を基に、表現の工夫を行う。 ○ 各パートの役割と旋律の雰囲気をふまえ、ふさわしい表現の工夫(強弱・パート同士のバランス)を考え、発表する。(グループ)	○ パートごとに、異なる工夫をした方が効果的であることを助言する。 ○ なぜその工夫をしたいのか、理由とともに発表するよう指示する。	

○ 実際に各グループが考えた工夫を、歌い比べてみる。 6 全体合唱を行う。 ○ 今回工夫した部分だけでなく、他の部分でもパートごとに役割を考え、他のパートを意識しながら合唱する。 ○ 課題曲と続けて演奏する。 7 本時のまとめをする。	○ 生徒が考えた表現の工夫を再現できるよう、積極的に技能指導を行う。 ○ パートの役割を意識しながら歌うことができるよう、グループごとに半円になって歌う場を設ける。 ○ 他の部分(練習番号 D、G)についても、パートの役割を考えさせ、パート間の関連を説明する場を設ける。 ○ 演奏を評価する力を養うため、パートリーダーを前に呼び、演奏を聴かせる。 ○ 課題曲との雰囲気の違いを表現できるよう、続けて演奏する場を設ける。 ○ 本時の学習を振り返り、学んだことを次時に生かせるよう助言する。	33 分 43 分 45 分
--	---	-------------------------------------

7 板書計画

目標：パートの役割やパート同士の関係に気をつけて歌おう。

拡大譜 (B1～3 小節)

拡大譜 (B4～6 小節)

拡大譜 (B7～8 小節)